



国立大学法人

大阪教育大学



大阪教育大学

附属特別支援学校

共同研究者

保田 洋幸・花田 知恵・上西大輔
正井 隆晶（特別支援教育部門）

知的障害特別支援学校における 「さわる」を取り入れた美術鑑賞の実践的研究

【本研究の目的】 「主体的に学習に取り組む態度」を養う美術鑑賞の学習モデルを視覚障害教育での「触察（以下、さわる）」の手法を取り入れて検討する

【今年度の目的】 中学部美術科の授業での美術鑑賞における「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価の検討と知的障害教育に適した触図の考案

【研究方法】

1. 対 象：大阪教育大学附属特別支援学校中学部美術科C班

2. 内 容：表1・表2の通り3作品で鑑賞学習をおこなった。

表1 「3本のひまわり」鑑賞学習 実施内容の記録

	実施時期	主な学習内容	生徒
1回目	令和6年6月17日	ゴッホの作品鑑賞→模写①	6名
2回目	令和6年6月24日	触図に触れながら鑑賞→模写②	6名
3回目	令和6年7月8日	実物のひまわりの観察→実物のひまわりを見て描く	8名

表2 「あち」「作品'78-52」鑑賞学習（美術館での鑑賞学習） 実施内容の記録

実施時期		主な学習内容	生徒
令和6年9月26日	前半	控え室で白黒の作品と触図に触れ鑑賞→作品に自由に着色	5名
	後半	展示室で課題作品を鑑賞→自分が着色した作品との見比べ	5名

3. 手続き

1) 「思考・判断・表現」の学習評価の検討

授業動画を基に生徒の発言記録を作成し、新関・松岡（2020）が示す「鑑賞学習ルーブリック」（表3）の項目で生徒の発言を分類した。また、「3本のひまわり」の学習では模写を実施し、表現の変容を見るとともに、鑑賞ルーブリック上で学習評価を検討した。

2) 「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価の検討

文部科学省（2017）が示す「主体的な学び」を基に「さわる」美術鑑賞での「主体的に学習に取り組む態度」を定義（表4）し、その定義に基づいて、美術鑑賞時の行動記録から「主体的に学習に取り組む態度」を抽出した。また、「あち」「作品'78-52」の学習では白黒の作品に自由に着色する活動にも取り組み、「さわる」鑑賞における学習評価を検討した。

表3 鑑賞ルーブリック（新関・松岡，2020）

鑑賞学習ルーブリック					
コモンルーブリック					
レベル		レベル4 ☆☆☆☆	レベル3 ☆☆☆	レベル2 ☆☆	レベル1 ☆
観 点					
(A) 見方・感じ方		作品の主題や造形について、作品にまつわる知識や他者の見方・感じ方に刺激を受けながら、自分の見方・感じ方を分析的に表明している。	作品の主題や造形について、作品にまつわる知識や他者の見方・感じ方に刺激を受けながら、自分なりの見方・感じ方をもっている。	作品の主題や造形について、自分なりの印象をもっている。	作品について興味・関心をもったことを中心に、自分なりの印象をもっている。
	(B) 作品の主題	作品から伝わる主題をとらえて批評している。	作品から伝わる主題について想像し、説明している。	作品から伝わる主題について想像している。	作品について興味・関心をもった部分を中心に、意味づけをしている。
(C) 造形要素とその効果	(C) - 1 形、色	作品の中の形や色に込められた意味や特徴をとらえて、批評している。	作品の中の形や色に込められた意味や特徴について説明している。	作品の中の形や色の特徴を指摘している。	作品の中の形や色に関心をもっている。
	(C) - 2 構成・配置	作品の中の構成や配置に込められた意味や特徴をとらえて、批評している。	作品の中の構成や配置に込められた意味や特徴について説明している。	作品の中の構成や配置の特徴を指摘している。	作品の中の構成や配置に関心をもっている。
	(C) - 3 材料、技法・様式	作品の材料や技法・様式の意味や特徴をとらえて、批評している。	作品の材料や技法・様式の意味や特徴について説明している。	作品の材料や技法・様式の特徴を指摘している。	作品の材料や技法・様式に関心をもっている。
(D) 作品にまつわる知識	(D) - 1 歴史的位置づけ、文化的価値	作品が美術の歴史にもたらした意義や文化的価値を理解し、批評している。	作品が美術の歴史にもたらした意義や文化的価値について説明している。	作品が美術の歴史にもたらした意義や文化的価値について想像している。	作品が美術の歴史にもたらした意義や文化的価値に関心をもっている。
	(D) - 2 社会・環境とのつながり	作者の考え方や作品が社会や環境に与えた影響について理解し、批評している。	作者の考え方や作品が社会や環境に与えた影響について説明している。	作者の考え方や作品が社会や環境に与えた影響について想像している。	作者の考え方や作品が社会や環境に与えた影響に関心をもっている。
(E) 生き方		作者が、自分の考え方や世界への関わり方に影響を与えることを実感し、自らの生き方につなげている。	作者が、自分の考え方や世界への関わり方に影響を与えることを実感している。	作者が、自分の考え方に影響を与えることに関心をもっている。	作者が、自分の気持ちに影響を与えることに関心をもっている。

表4 「さわる」美術鑑賞における「主体的に取り組む態度」の定義

文部科学省の定義		「さわる」美術鑑賞での定義	
主体的な学び	学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげている。	主体的に学習に取り組む態度	作品に興味や関心を持って、対象物に触ったり見たりして、他者の見方・感じ方も受け止めながら粘り強く対象物と向き合い、自分の見方・感じ方を形成し、それを他者に伝えようとしている。

【結 果】

1. 「思考・判断・表現」の学習評価（表5）

鑑賞ルーブリックの3観点での学習評価はレベル1または2の段階に当てはめることができた。模写の色彩表現や構図にも変容が見られた。

2. 「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価（表6）

「自分で〇〇する」と「見比べる」の2観点の行動にまとめることができた。自由に着色する活動では、主体的な色選びで表現することができた。

表6 「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価の結果（抜粋）

学習に取り組む態度	生徒の行動	
	「3本のひまわり」	「あち」「作品'78-52」
自分で〇〇する	・自分の触り方で触図に触れる ・ひまわりの中心や花びらを指差して話す	・指先で触図のパターンを確認する ・パズルをはめ込む
見比べる	・触図と作品を交互に見る ・種類の違うひまわりを見比べて違いを述べる	・触図と作品を見比べて同じ部分を指差しする ・自分の着色した作品と実物を見比べる

表5 「思考・判断・表現」の学習評価の結果（抜粋）

	鑑賞対象	学習評価		生徒A、B、C、D、Eの発言 (教員の発問)
		観点	レベル	
3本のひまわり	(1回目) 作品	(A) 見方・感じ方	1	A1 (どんなひまわり) たんぽぽ B2 (何に見える) 鬼の顔
		(C) - 1 形、色	2	C3 (葉っぱがどんな色) 枯れているみたい(てことは、きれいな緑ではなくて) 枯れている緑
	(2回目) 触図と作品	(C) - 1 形、色	1	A4 (花瓶はどんな色が使われている) 黄緑 (他ある) 白もある D5 (最後〇君) オレンジや (これは) 紫や
あち	(前半) 触図 着色作品	(A) 見方・感じ方	1	A8 (これはお家ですか地球ですか) 宇宙お家です
		(C) - 1 形、色	1	E9 (全部白黒かなって思った、他のところに色あるかなって思った) 他のところに色いっぱい
	(後半) 作品	(A) 見方・感じ方	2	D10 (Y先生は地図に見えるって言ったけど、何に見える) 電車 (何線、どこ走ってる) 川 (どこが川) こうや C11 (Y先生は地図って言っているけど、そんな風に見えない、見える) 見えない
		(C) - 1 形、色	2	E12 (これ見てどうですか) 色が違うなって思った (どんなふう違うなって思ったのかな) 水色とかオレンジ多いかな

【考 察】

・結果1と昨年度の結果も踏まえて、知的障害特別支援学校中学部段階での鑑賞学習の評価は、鑑賞ルーブリックの3観点のレベル1～3の範囲で当てはまり、その多くが1または2のレベルで評価に悩むことが分かった。このことから、知的障害教育に適した内容でレベル分けすることや、より明確な評価規準を設けることも必要と考えられる。

・結果2より、触図への興味関心の高さを見ることができたが、触図により創造性が高まったのか等を実証するまでには至っていない。

・全体を通して、模写等の表現活動での結果が、鑑賞ルーブリックでの評価や、「さわる」美術鑑賞の定義に当てはめることができたことから、知的障害教育における鑑賞ルーブリックの評価規準の指標に関しては、表現活動での要素も含めて検討することが妥当であると考ええる。